

第9回 双葉町復興推進委員会 議事概要

■日時：平成26年7月23日(木) 午後1時00分～4時30分

■場所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

■出席者：別紙座席表のとおり

■議事概要

1. 開会

2. 議事

(1) ワークショップ

テーマ：双葉町の将来像について

「双葉町の将来像」について審議し、「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」の策定に反映させることを目的として、①将来にわたって残す双葉町、②新たな街の核・シンボルづくり、③町の復興を牽引する新たな産業の誘致、④次代の双葉町を担う人材育成、の4つのテーマごとのまちづくりアイデアについて、委員を4班に分けて座談会形式(ワークショップ)にて議論を行った。

※ワークショップについて

- ・班ごとに自由な議論を行う。
- ・各委員の意見はカード(付箋紙)に書いて班内で共有できるようにする。
- ・意見(付箋紙)を集約し、班ごとに模造紙にまとめる。

(2) ワークショップのグループ成果の発表

○ 各班より模造紙にまとめた成果を発表

各班が模造紙にまとめて発表した意見は以下のとおり。

※【カードに書かれた意見】は事実誤記等を含めて、カード(付箋紙)に記入されている原文を尊重して整理した。

1班 将来にわたって残す双葉町

委員：相楽・田中・斉藤・高野・山本

1班の発表の要点

- 双葉町のシンボルとして「清戸迫装飾横穴墓」「桜」があげられる。
- 双葉町の風景や双葉町の文化である「神楽」「せんだん太鼓」等を無形文化財として動画に残して将来に伝承する。
- 歴史資料館を実演・体験型にして、双葉町の歴史・文化・原発事故の記録を残して将来に伝承する。

【カードに書かれた意見】

《シンボルマーク》

- ・双葉町のシンボルマークに清戸迫装飾横穴墓の図案を使用する。

- ・シンボルマークは名刺や学校施設で使用する。

《シンボル景観》

- ・双葉町のシンボルである桜の植樹を今から始めて将来の桜の森をつくる。
- ・衛星から見ると桜の花の形で森が見える町をつくる。
- ・双葉海水浴場を再生したい（バンガローもよかった）。
- ・十万山周辺を町のシンボル景観として整備したい。

《風景》

- ・商工会青年部で思い出の写真集を作っている。
- ・町の風景写真を拡大して避難先の建物の壁に貼り、町の風景を再現する。

《歌》

- ・町民 6,000 人が参加して歌を作り動画で PR する。

《神楽》

- ・各行政区で受け継がれてきた神楽などの無形文化財を映像で残す。
- ・夏の盆踊りは行政区単位と全町の 2 回開催していた。
- ・盆踊り、ダルマ市、野馬追い、双葉音頭、せんだん太鼓を伝承する。
- ・イベントに行きやすい環境を作る。
- ・若い人たちの気持ちがバラバラである。

《昔話》

- ・双葉町の昔話をまとめている人がいる。
- ・双葉町から資料の持出・保管を行い、本として松木氏にまとめてもらう。
- ・双葉町の歴史を語り部が伝えていく。
- ・双葉町の昔話本を作ったり、紙芝居、講談で上演する。
- ・双葉町の言葉（方言）で伝える語り部を育成し、データにして保存する。

《歴史》

- ・歴史民俗資料館を実演・体験型にすると良い。
- ・古墳が 100 か所以上あるので、埋蔵文化財、MAP、イベント開催などで整理・記録する。

《事故の歴史》

- ・原発事故の記録を残す資料館をつくる。

《ふるさとの味》

- ・ふるさとの食堂の味を 1 日限定イベントで再現したい。
- ・開発途中であった、ふるさとの味（ブルーベリーおにぎり・ダルマおやき）の開発を再開したい。

《生活・文化を伝える》

- ・写真入りで双葉町の文化・生活カレンダーを作る。
- ・双葉町のことを子どもに伝える本があると良い。

2班 新たな街の核・シンボルづくり

委員：岡村・小川・横山

2班の発表の要点

- 清戸迫装飾横穴墓の図案を双葉町のシンボルとして使用し伝承する。
- 医療・介護施設を充実させ町民同士が支え合い、つながる街づくりに取り組む。
- 研究施設や教育機関を誘致して、双葉町から技術・知識・人材を育成して世界に輸出する。
- 宿泊施設を設けて観光事業を推進し、双葉町の文化を伝承する。

【カードに書かれた意見】

《清戸迫装飾横穴墓を例としたもの》

- ・お土産としてストラップを作り、親から子へ受け継ぐ。
- ・物語やマンガとして残す。
- ・リアルに残す。
- ・清戸迫装飾横穴墓をシンボル・モニュメントとして使用する。
- ・建物の壁紙に利用する。
- ・歴史文化資料館をつくる。
- ・皆が集まる場所として伝承館をつくる。

《コミュニケーションの再生》

- ・町民同士が支え合い、つながる街づくりに取り組む。
- ・町民が町を支え、町民同士が支え合う教育を行い、教育施設を設置する。
- ・奨学金や学費免除の制度を設け、学生を全国から集める。
- ・互助会、隣組制度を活用する。
- ・医療設備・介護施設を充実させる。
- ・筑波研究学園都市のような新旧が交じり合うまちづくりに取り組む。

《(新) 新アトムバレー》

- ・研究施設、体験施設、スーパーサイエンス施設、再生エネルギー研究施設を誘致する。
- ・技術、知識、人材を双葉町から輸出する。
- ・留学を促す。
- ・幼少期から英語、ITを教える教育施設を設ける。

《(旧) ふるさと》

- ・マリンハウス双葉のような宿泊施設を設けたりバラ園等の観光事業を促進させる。
- ・ホッキごはん、さんまつみれ汁等の郷土料理を出す飲食店を残していく。
- ・ダルマ市、せんだん太鼓等の文化を伝承する。

《生きる》

- ・（水源の安全性の確保をした上で）水資源のパイプライン計画を具体化する。
- ・新たな農業技術、地上養殖の技術を取り入れる。
- ・放射能関連の処理施設設置や除染を推進する。

3班 F（双葉）ヴィレッジ構想（町の復興を牽引する新たな産業の誘致）

委員：伊藤・菅本・川原・高田

3班の発表の要点

- 国による復興の方針・計画・ビジョンが必要である。
- イノベーション・コースト構想を中心に研究所や企業の誘致を行う。
- 廃炉・除染関連の産業に関わる人材の育成に取り組む。
- 住民による生活関連商業・サービス業の創出を支援する。
- 花卉産業を復活させて、バラ園再開を促進する。

【カードに書かれた意見】

《国策として早期推進》

- ・除染の期日等、国が方針を示すべきである。
- ・ステップごとの復興計画が必要である。
- ・復興のビジョンが必要である。
- ・双葉町の優遇策は必要ではないか。

《双葉町が中心に》

- ・イノベーション・コースト構想を中心に廃炉・除染関連の研究所やロボット関連企業の誘致を行う。
- ・国際産学連携の拠点として整備する。
- ・世界に情報を発信する情報発信拠点を設ける。
- ・廃炉・除染関連の人材育成を推進する。
- ・原子力発電研究所、エネルギー、ロボット技術等の新産業を育成する。

《世界から視察・研修》

- ・産業観光を育て、研究所や企業の学習体験や研修を受け入れる。

《周辺産業が自然と集まる》

- ・住民による商業、サービス業、宿泊施設等の様々な産業の創出を支援する。

《花卉産業を再開》

- ・農業の再開は難しいが、花は可能性があるのでバラ園の再開を推進する。

4班 次代の双葉町を担う人材の育成

委員：松本・大橋・石田・中谷

4班の発表の要点

- 双葉町の良さを伝承し教育の向上や多世代の交流を促すプロジェクトを促進する。
- 町立小学校や奨学金制度の充実等、学習環境を整える。
- 大学と研究機関等の産学連携を推進し、雇用を創出する。
- 双葉町にしかできない研究を行い、世界唯一の研究機関を設け新たな拠点とする。

【カードに書かれた意見】

《基本理念》

- ・双葉町の良さを感じるプロジェクトを推進する。
- ・自然と教え教わる関係を築く。
- ・多世代間の交流を促進する。

《双葉町の良さと現状》

- ・各仮設住宅にて、せんだん太鼓や双葉音頭の伝承に取り組む。

《福祉をより身近にプロジェクト》

- ・いわきを拠点に交流の場を設置する。
- ・子どもの宿泊訓練と高齢者の交流会を同日に行う。
- ・高齢者が得意な昔あそびを子どもたちへ伝承する。

《町立小学校プロジェクト》

- ・きめ細かな個人指導をPRする等、お徳感を持てる町立小学校づくりに取り組む。

- ・宇宙飛行士山崎直子氏を招き、宇宙や科学について子どもたちが興味を示すように工夫する。

- ・高等専門学校の先生を招くなど高度な教育を実践する。

《双葉に子どもが戻る》

- ・双葉町に戻る学生に対する奨学金制度を充実させ学習環境を整える。
- ・若い時期は都会や海外へ行き、技術を身に付けて双葉町に帰れるような環境づくりに取り組む。

《親育て》

- ・教育の場において、親世代の意識改革を推進する。

《雇用》

- ・大学の農学部におけるバイオマス等の研究を支え、産学連携を推進し、雇用を創出する。

- ・高齢者施設で働く人材を育てる。

- ・放射能を除去する農産物を開発する。

- ・介護施設の充実や24時間の託児所を設ける。
- ・日本の雇用条件を見直すべきではないか。

《世界で1番の研究》

- ・双葉町にしかできない研究を行い、世界で1つしかない研究機関を設け新たな拠点とする。

今回の座談会（ワークショップ）のまとめ

○各班の発表を受けて、コーディネーター金子氏が以下のとおり全体のまとめを行い、以下のとおり説明した。

①将来にわたって残す双葉町

歴史や文化等、今あるものを記録し、未来へ伝承すると同時に、未来につながる新たなシンボルをこれから作り始めることが大切だ。

②新たな街の核・シンボルづくり

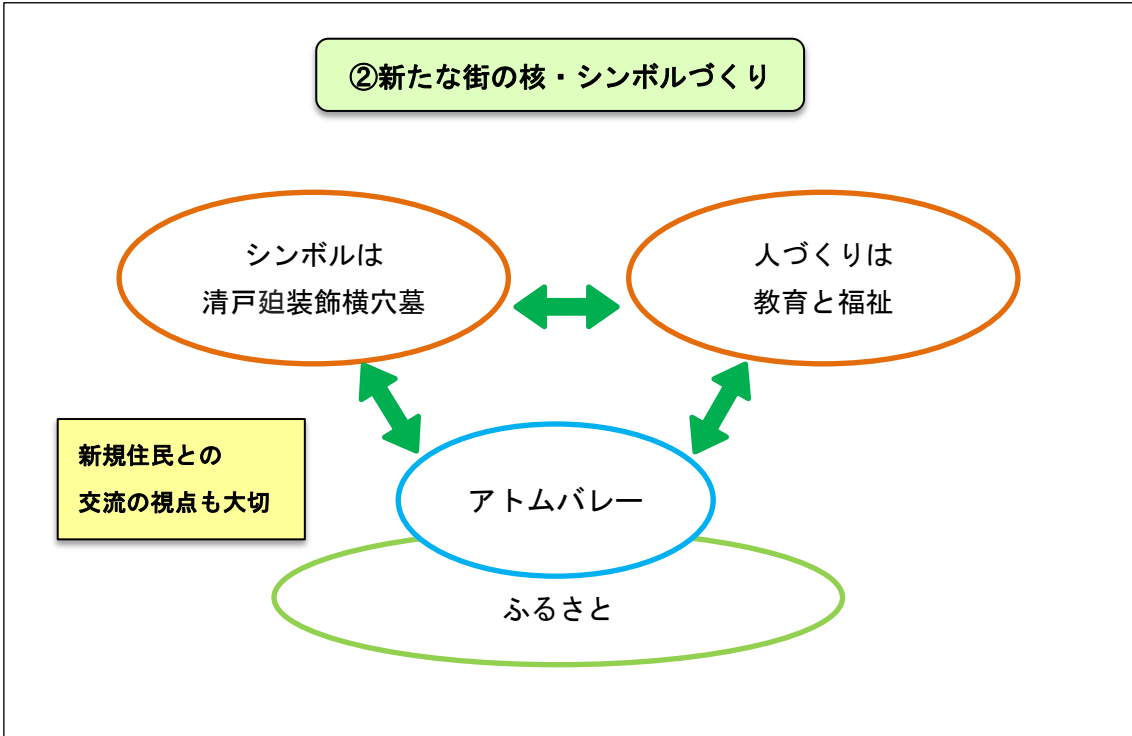
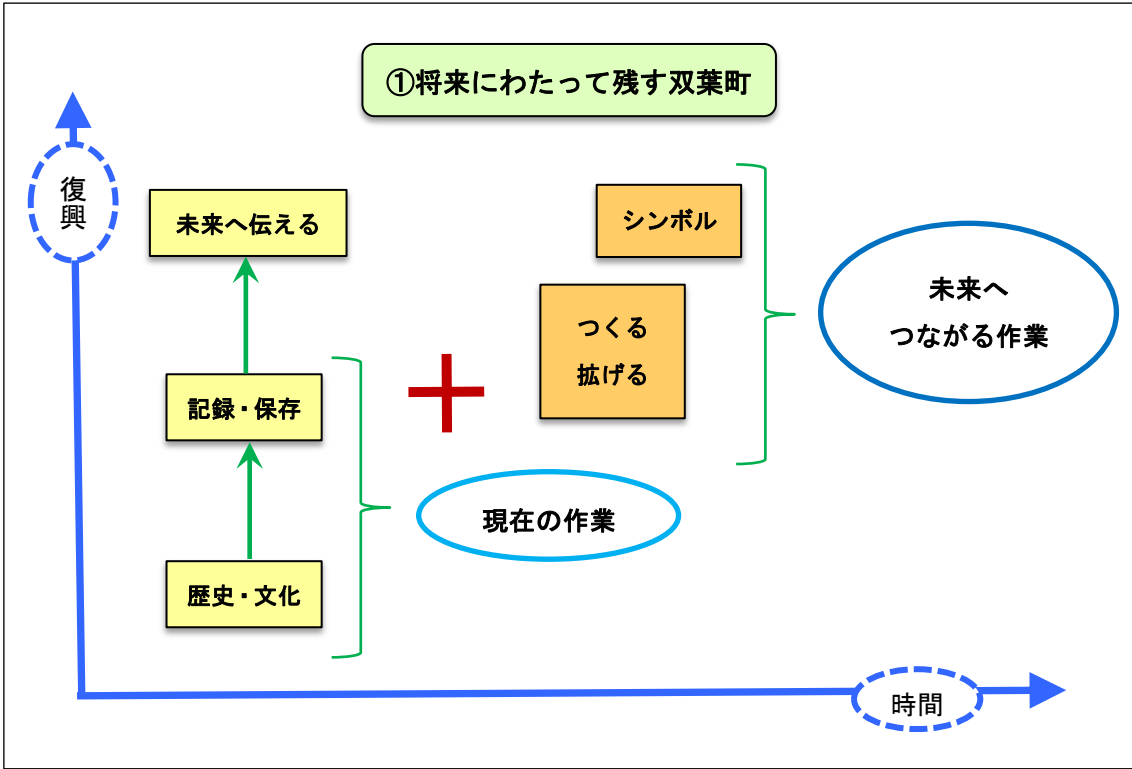
双葉町のシンボルとして清戸迫装飾横穴墓が共通して出ている。また、人づくりは子どもの教育と、福祉を支える人材が重要である。新産業のアトム・バレーを中心にしつつ、水源などこれまでのふるさとの生活環境を取り戻す。

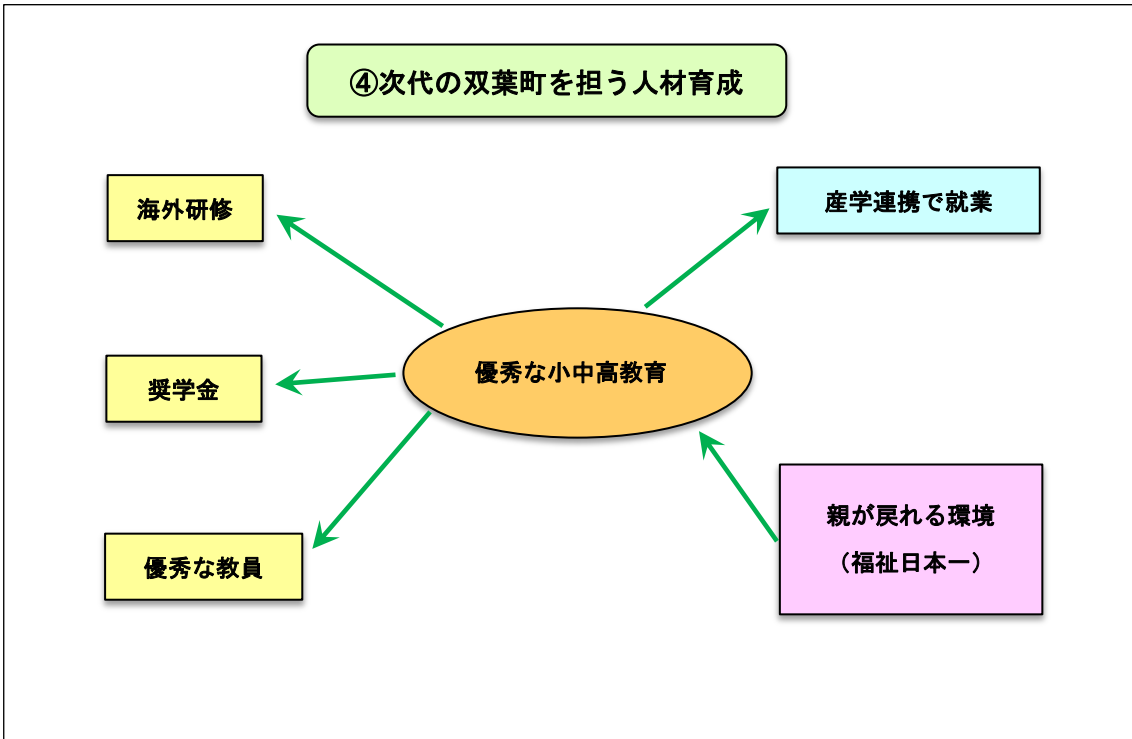
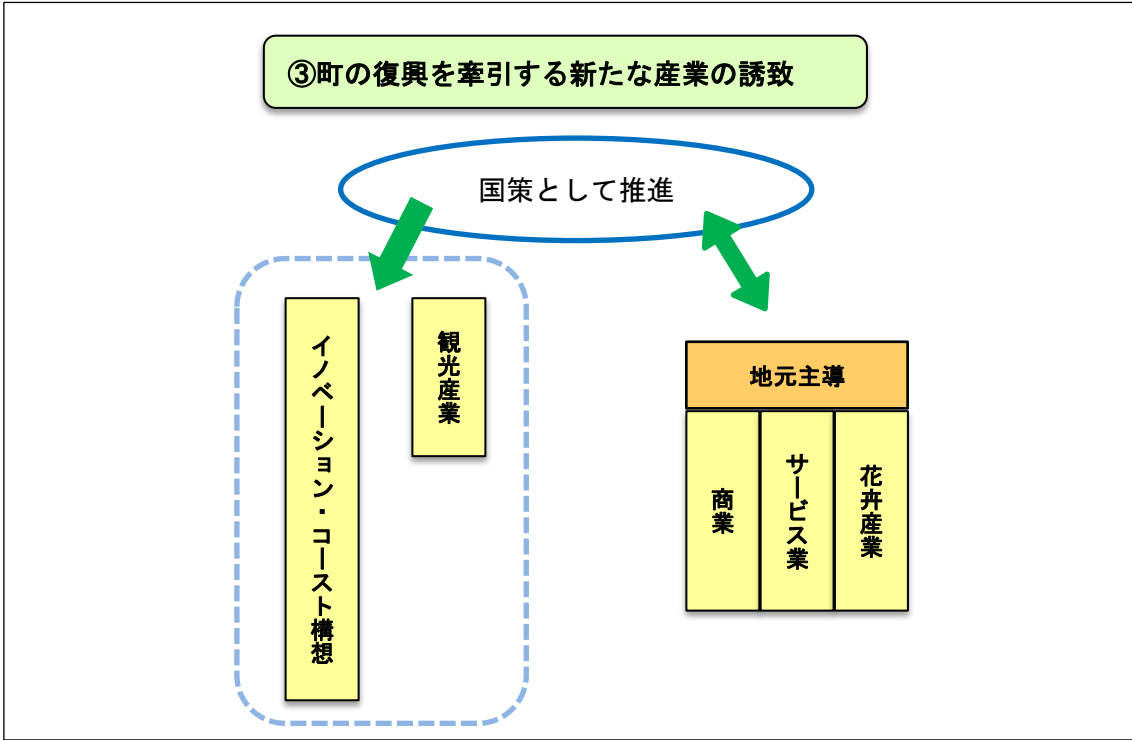
③町の復興を牽引する新たな産業の誘致

産業復興の基本は国策で、イノベーション・コースト構想や観光産業を誘致育成することが基本となる。そのうえで、地元主導で生活関連サービス産業や花き産業を復興する。

④次代の双葉町を担う人材育成

人材育成の中核は優秀な小中高校教育である。そのためには、介護や医療の充実をはかり、親が子どもを連れて双葉町へ戻れる環境を整えることが重要である。そして在学中は、優秀な教員、奨学金、海外留学などの環境を整備する。そして産学連携の高等教育と集合環境を用意する。





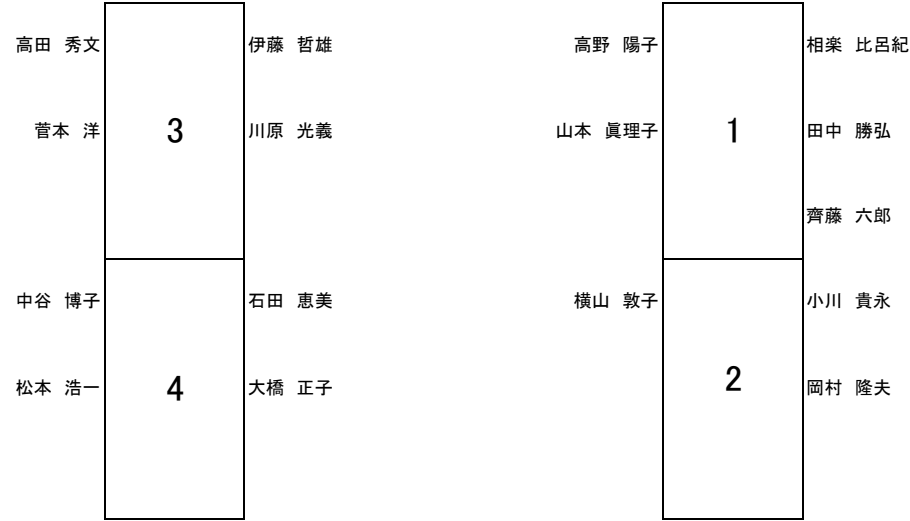
- 各班の発表に対して委員間の討議を行った。
 - 双葉町がひとつになるには「だべ」という言葉で顔を合わせる必要がある。仮のまちづくり（復興公営住宅）を早急に取り組み、親の姿を子どもに見せる必要がある。
 - わたしは産業テーマのグループを希望していた。町外拠点、復興拠点の整備、戻れない間に双葉町をどうしていくのか、どこから手を付けるのかが興味ある。新エネルギー構想（太陽、地熱）の具体化のために、今からデータを計測する必要がある。
 - 今がつながらなければこれからもつながらない。家の中の事（家風、歴史、思い）を伝え残す必要がある。世代分離が進んでいるのはお互いの想いがわからないのが原因である。葬式の問題もある。急に亡くなると、何を伝えたかったのか、わからないまま葬式を行うことになる。エンディングノートではないが、個人が伝えるものを全町民に配布するのはどうか。評議員会からも伝え方、残し方について意見が出た。
 - 第一希望が産業であった。人の意識として考えていた。復興が実現すると、双葉町以外の人にも来るようになる。事業者についても新しい事業者が増える。事業に関しては競争社会ではあるが、人については新しい人が入ると、受け入れる体制、意識を持つ必要があるのではないか。他の地域や海外の人との交流を意識していかななくてはならない。
 - グループで話し合ううちに、絵に描いた餅にならないか、という懸念も出た。そうならないためにも、努力してまちづくりを進めなくてはならない。しかし、私たちの力だけではどうにもならない。町、県、国の力をもらわないといけない。絵に描いた餅にならないためにも、力添えをしてほしい。
 - 人間は無限の価値を持つ。双葉町特有の「教育の町」などと言われていたように人材育成を推進して、「なるほどさすが双葉だ」と言われるようにしてもらいたい。

以上

第9回双葉町復興推進委員会座席表(グループ発表・全体討論)

(敬称略)

- 1 日時 平成26年7月23日(水)
13:00~16:30
- 2 場所 双葉町いわき事務所 2階大会議室



復興庁
石川 悟
参事官補佐

復興庁
福島復興局
須田 亨
参事官
福島復興局
いわき支所
林 文之
次長
福島復興局
いわき支所
横山 大輔
参事官補佐
福島県
避難地域復興課
佐藤 庄一
総括主幹
福島県
生活拠点課
根本 朝彦
主査

猪産 狩業 建設 浩設 課長	山税 本務 課一 長 弥	平秘 岩書 広報 弘課 長	船総 来務 課長 丈夫	武総 内括 参事 裕美	伊町 澤長 史朗	間委 野員 一長 博	半副 澤町 長 浩司	半教 谷育 長 淳	松住 本民 生活 英課 長	志生 賀活 支援 課長	大健 住康 福社 宗重 課長
----------------------------	--------------------------	---------------------------	----------------------	----------------------	----------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------------------	----------------------	----------------------------

事務局(復興推進課)			事務局(復興推進課)			事務局(復興推進課)			事務局(復興推進課)		
小支 山援 員 勲	由支 波援 員 大樹	西主 牧事 孝幸	橋主 本任 主査 靖治	細課 澤長 補 界佐	駒課 田長 義誌	今教 泉総 務一 課長	山議 下会 事 正務 夫局 長	半會 谷計 管 安理 子者	山副 下主 査 明弘	米支 山援 員 治介	山支 中援 員 啓稔